

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分  
 【発行日】平成 16 年 12 月 2 日 (2004.12.2)

【公開番号】特開 2000-231237 (P2000-231237A)  
 【公開日】平成 12 年 8 月 22 日 (2000.8.22)  
 【出願番号】特願 平 11-72435  
 【国際特許分類第 7 版】

G 0 3 G 15/01

G 0 3 G 15/00

G 0 3 G 21/14

【F I】

G 0 3 G 15/01 Y

G 0 3 G 15/01 1 1 4 A

G 0 3 G 15/00 1 0 6

G 0 3 G 21/00 3 7 2

【手続補正書】  
 【提出日】平成 15 年 12 月 16 日 (2003.12.16)  
 【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0 0 2 5  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】

【0 0 2 5】

更にまた、本実施の形態において、定着装置 4 2 は、図 4 に示すように、ヒータ 7 1 が内蔵された加熱定着ロール 7 0 と、この加熱定着ロール 7 0 に対し所定のニップ域で圧接配置されて転動し且つ内部にヒータ 7 3 が内蔵される加圧定着ロール 7 2 とを備え、両定着ロール 7 0 , 7 2 のニップ域の出口側には出口ロール 7 4 を配設すると共に、この出口ロール 7 4 の直後に用紙 P が通過したことを検知する出口センサ 7 5 を配設したものである。

本実施の形態では、加熱定着ロール 7 0 , 加圧定着ロール 7 2 は、所定の外径寸法（例えば 65 mm）の中空ロール体からなり、アルミニウム製の中空ロールコア（例えば 4 . 5 mm 厚）を有し、このロールコア上にシリコンゴムなどの基層（加熱定着ロール 7 0 : 例えば 3 mm 厚 , 加圧定着ロール 7 2 : 例えば 2 mm 厚）を形成すると共に、この基層の表面には例えばバイトンからなる表層を形成したものである。

【手続補正 2】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0 0 5 8  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【0 0 5 8】

この段階において、ジョブ 2 による作像サイクルは終了するが、作像制御装置 1 0 0 は、図 6 に示す基準信号変更処理を行い、ベルト基準信号を切り換え選択した後に、ジョブ 3 によるジョブ指令を実行する。

尚、ジョブ 3 による作像サイクルが終了すると、作像制御装置 1 0 0 は、基準信号変更処理を行い、装置の作動を停止する。

【手続補正 3】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0 0 5 9

## 【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【0059】

## 実施の形態3

本実施の形態に係る画像形成装置の基本的構成は実施の形態1と略同様であるが、実施の形態1と異なり、装置の作動開始からジョブによる作像サイクルを実行する前までに基準信号変更処理を行うようにしたものである。

すなわち、図20に示すように、例えば3つのジョブ指令(J o b 1, J o b 2, J o b 3)の指示を受けた場合を例に挙げると、先ず、作像制御装置100は、ジョブ1による作像サイクルを実行する前に、基準信号変更処理を行う。尚、ジョブ1の詳細については図21に示す。

本実施の形態に係る基準信号変更処理は、図21に示すように、先ず最初に中間転写ベルト20を半周分だけダミー回転させ、先行する画像担持領域(本例では例えば第1画像担持領域G1)をスキップするというダミーサイクル(中間転写ベルト1周目の前半部)を行うものである。

この後、作像制御装置100は、ジョブ1について各作像サイクル(第1作像サイクル, 第2作像サイクル)をベルト基準信号-2及びこれのタイミング信号を元に行う。実行した後に、再度、基準信号変更処理(第2画像担持領域G2をスキップ)を行い、ジョブ2について各作像サイクルをベルト基準信号-1及びこれのタイミング信号を元に行う。更に、基準信号変更処理(第1画像担持領域G1をスキップ)を行った後にジョブ3についてベルト基準信号-2及びこれのタイミング信号を元に各作像サイクルを実行する。